

巻頭言

2010年3月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

希望を持ってスタートを切ろう！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

春風を感じるようになってやっと受験が終了しました。今年は特に、不況といわれる時代の「厳しい受験」という印象が心に引っかかっています。公立の倍率が高くなっている時の受験の特徴は、内申点がものをいう分、早めの取りかかりが大切になります。先手必勝という観点からいえば、出遅れや生半可な取り組みは命取りということです。毎年繰り返されることですが、受験ぎりぎりになって初めて、「やらなくては！」と気づく勉強では、納得できる結果は得られないことが多いという事です。どこかで、自分の姿勢を捉え返さないと、受験では辛い思いをします。「後悔先立たず」ということわざどおり、当事者はなかなか現実が見えないものです。失敗して初めて、いろいろなことに気づきます。本人の認識がないと「成功」はもたらされません。そう考えると人生においては「失敗」も重要な「要素」ということになります。

最新の脳の研究では、この「後悔」というのが人間の成長には重要な要素といわれています。「反省」はただ、振り返るだけの事ですが、「後悔」は後に成長につながるということです。確かに、周りの人をよく見てみると、伸びる人、指導力を持つ人というのは、失敗に対して自分に厳しい印象があります。悩むことが多いということです。いつも安定して見える人ほど、実は、「成功」から遠い人ではないか？ということ。世の中で何事かをなしている人の多くは、必ずどこかで「大きな悔い」を体験しているはずです。

そんなことに比較すれば、些細なことかもしれませんが、受験に携わるものとしては、実は毎年、「悔い」におそわれます。指導する側の「悔い」ということです。でも、この悔いは次の指導には活かされていくものの、生徒達自身の「悔い」や成長まで、抱え込むことはできません。ここでは多分、生徒達、一人一人が、自分を振り返り「成長」を遂げていくしかないのだと思います。確かに受験期には、素直に言われたことをやる人が成功を勝ち取ります。人の話にきちんと耳を傾けていれば、今、何をなすべきかが自ずから分かるからです。ただしそれで終わりではありません。そこから先があります。自分がより高い位置に行けばいくほど、次の課題が大きく立ちあがってきます。

成し遂げるためにより高い位置に自分を押し上げていかななくてはなりません。自分の力を全うすることなのだと思えます。おそらくどこまでいっても、次の課題が追いかけてきます。前に進んでいるようで、ちっとも成長していないように感じるのは多分そういうことです。「悔い」があるうちは、成長している…ということです。

次の受験学年がはじまっています。「悔い」を残さぬようという言葉が、つつい授業中も出てきます。この意味を正確に言い換えれば、より次元の高い「悔い」に向かおうということになります。しかも「受験」は、ほんの小さな一歩に過ぎません。ここで、自分を否定するようなことはする必要もないし、あってはならないことだと思います。

去年の最終盤から「to do list」を実践しています。学習に取り組む前に常に「段取り」を考えるとということです。オープンルームなどの自習室などでも活用をはじめています。

長かった一年なのに、あっという間に過ぎてしまったと感じるのはいつものこと。おそらく次の一年もあっという間に過ぎるのでしょうが、次の自分は明らかに去年とは違うレベルにきていると私は勝手に感じています。この経験を踏まえて、指導のレベルアップを更に作っていきます。

生徒諸君もたくさんの「大変」を抱えていることでしょう。決していいことばかりの時代ではないにせよ、希望は捨てないでほしいと思います。とりあえずそれぞれの「受験」に向けてスタートを切りましょう。新学期は自分を振り返り、「目標」を定めるチャンスです。そこを漫然と過ごさないこと。ともにがんばりましょう。